



葉の灸は身に熱く、

欲の香りは甘い



私はキサキの思いに
気付かないふりをしていた――

ようこそ

先生

甘い香りだ

あれ…?
急に頭がボーっとして…



「スッ」...

大丈夫かや？

すごい汗じゃ

うん
ちよつとポーつと
しちやつて

キサキ
このお香は？



…其方にしては
察しが悪いの

キサキ…？



妾とて先生の立場は
分かっておる

スル...

其方は
何もせずともよい



ふふ
冗談じゃ



“それだけ”の事じゃ



!?

玄龍門の門主として
客人をもてなしている

そうさな





小さい口で
私のを啜えよう...

そんな上品に



キサキ
待って

このまま口に
射精してしまいたい

駄目だよ

これ以上は



はまわぬ

出して
だひて

ツ...!!



キサキ...っ!



そう、余計な事は考えず
触れ合っている感覚に
集中するのじゃ

布の奥で
柔らかく湿った肌の感触が伝わってくる

今、其方の性器が
妾の入り口に触れておる

溶けていくように熱い

力を入れずとも
挿入してしまいそうじゃ

どっどっ

ブル
ブル

ぷんぷん



少しずつ
妾の膣内を押し入って
いるのが分かるかえ？

キサキの膣内なか
熱い…

ああ

妾も其方が
ドクドクと脈打って
いるのを感じておる

ぐぐぐ…

たふたふ

たふたふ

たふたふ



…全部
入ってしもうたの

ん…♡

たふたふ

たふたふ



先生で
満たされておる…っ♡

これが性交
なのじゃな

先生は…っ
其方は気持ちいいかえ？

何よりじゃ…っ

うん…っ
すごく
気持ちいいよ

んっ♡

おっ♡
おっ♡
おっ♡

おっ♡
おっ♡

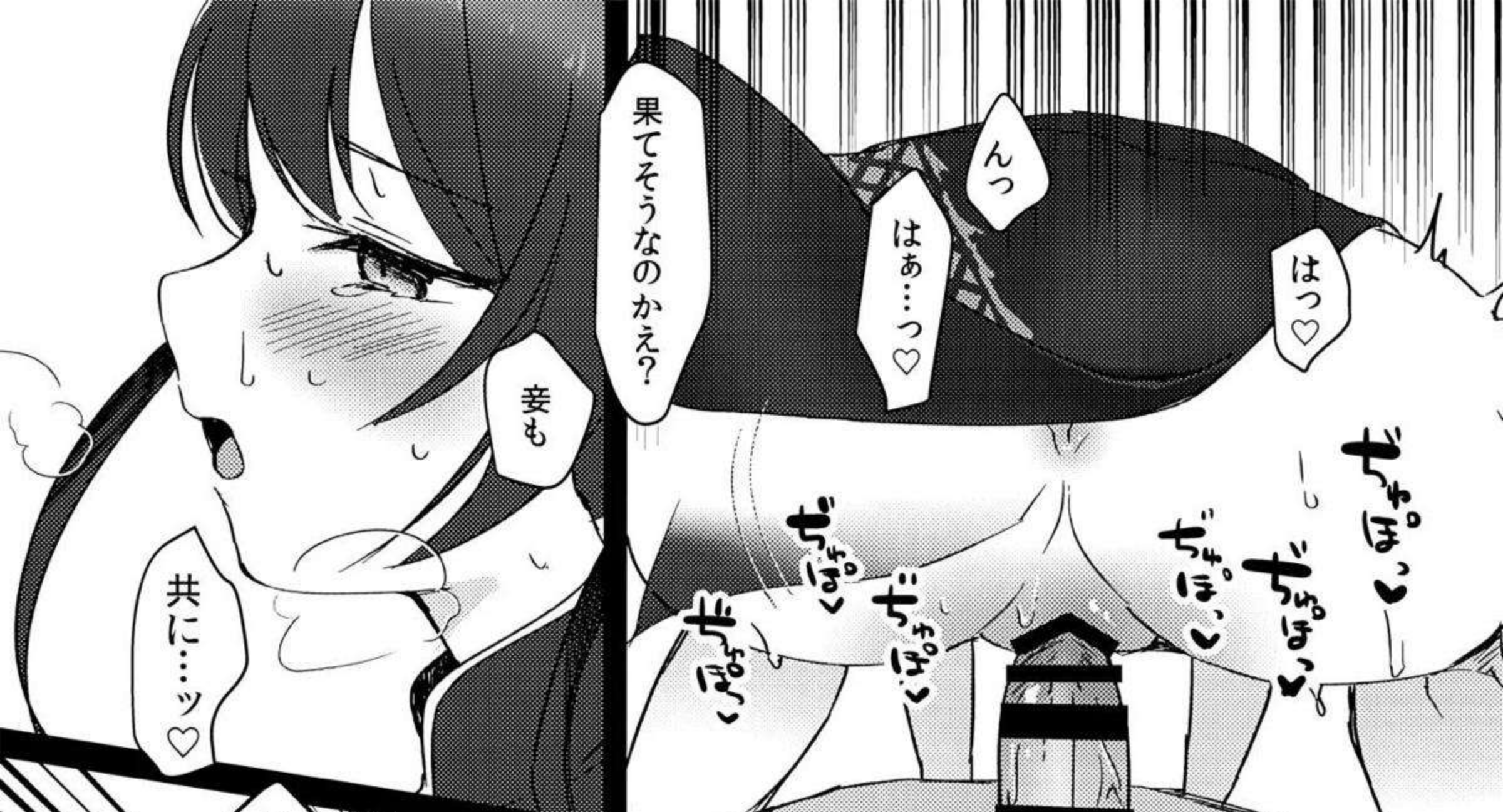
おっ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡



はっ♡

んっ

はあ…♡

果てそうなのかえ？

妾も

共…♡



ふっ

あめ♡

ズツッ

はっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡





大丈夫?
辛くない?

構わぬ...ッ

ガッ

ガッ
ガッ

あッ
あッ



其方の好きなように
してほしいのじゃ

はぁ
はぁ



キサキ...!

好きだよ
キサキ

...!!

先生っ♡
妾も♡

妾もずっと
前から...♡♡♡

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

すっ♡
すっ♡

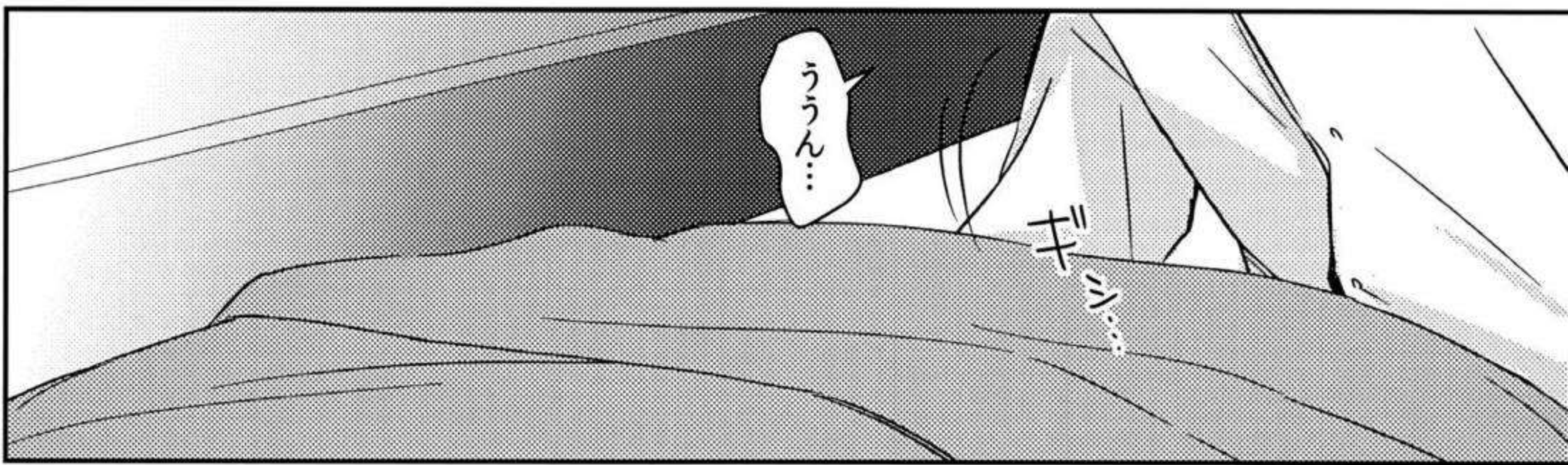
すっ♡
すっ♡

すっ♡
すっ♡

イク...♡
♡♡♡♡♡

♡...♡♡
♡...♡♡






目が覚めると
まるで何もなかったかのように



おはよう
先生

いつもの「香り」がした

／＼



「薬の灸は身に熱く、欲の香りは甘い」

発行日
2024.12.29

発行者 七味鈴
mail jellytabetai-73@hotmail.co.jp
pixiv 986112
X 73shitisan

印刷
同人誌印刷.com様

18歳未満の購入及び閲覧禁止
転載、複製、アップロード禁止



BLUE ARCHIVE fanbook

2024.12.29

presented by みらくるしろっぶ